

# JA北つくばの花



JA北つくば花き部会  
北つくば農業協同組合

# JA北つくば花き部会の概要

## ○産地規模

|      |                    |
|------|--------------------|
| 生産者数 | 94戸（平成29年5月現在）     |
| 作付面積 | 約17ha（H29年度）       |
| 出荷量  | 約44.2万本（H28年度）     |
| 販売額  | 約2億500万円（税抜・H28年度） |

## ○花き部会の主な経過

平成16年4月、結城市園芸部会花き部と東部花き部会が合併統一、JA北つくば花き部会が発足した。組織力強化のため3つの専門部を設置し、各品目のさらなる技術向上・安定出荷にむけた活動を展開している。

最大品目の小菊においては、平成22年3月「茨城県花き銘柄産地」指定を受ける。年間出荷本数約250万本で県内第4位、若手から高齢層、女性までが作付けをする多様な担い手による小菊産地である。

アスターにおいては、一産地の年間出荷量約90万本、日本一のエゾアスター出荷量を誇る。下葉を処理した花束加工ユーザーが使いやすい出荷スタイルを徹底し、出荷量の大半が予約相對によって販売となる人気商品となっている。

トルコギキョウにおいては、圃場でのフォーメーション作りを徹底することで、花持ちの良さが格段に向上。県内トップの販売単価を獲得している。

その他、多品目にわたる作付体系により、花き周年出荷産地となっている。

## ○花き部会の特徴

### ①多品目栽培

県内では、類を見ない他品目を栽培している。約20種類

例) バラ、ひまわり、パルディア、ケイトウ、ハボタン、その他

### ②独自の差別化商品の開発

プチシリーズ（プチヒマワリ、プチハボタン、プチケイトウ）

### ③多様な担い手層

部会員の約1/4が女性であり、県内でも珍しい女性が元気の良い産地である。

また、定年退職等、脱サラ就農による新規就農者も目立つ。

## ○花き部会の取り組み

本部活動・・・花き生産による農業経営発展に向け、販売対策、視察研修会等を実施。近年は、消費者に向けた産地PRを重視した活動実施

専門部活動・・・菊部、アスター部、洋花部、和花部の専門部ごとに栽培講習会、現地検討会、目揃会を実施し、品質・技術の向上、生産者意識の統一に取り組んでいる。

土作りの推進・・・JA土壌診断室を利用し分析実施。JA独自の土壌改善・施肥設計により健全な土づくりに取り組んでいる。この取組により、品質安定・向上と病害虫への耐性向上により農薬使用量減少を図る。

生産技術・・・主要品目のさらなるレベル向上による品質向上・出荷期間拡大。新規品目の開拓による作期拡大、周年化への取り組み実施。  
電照栽培による開花調整の確立へ向けた取り組み実施。

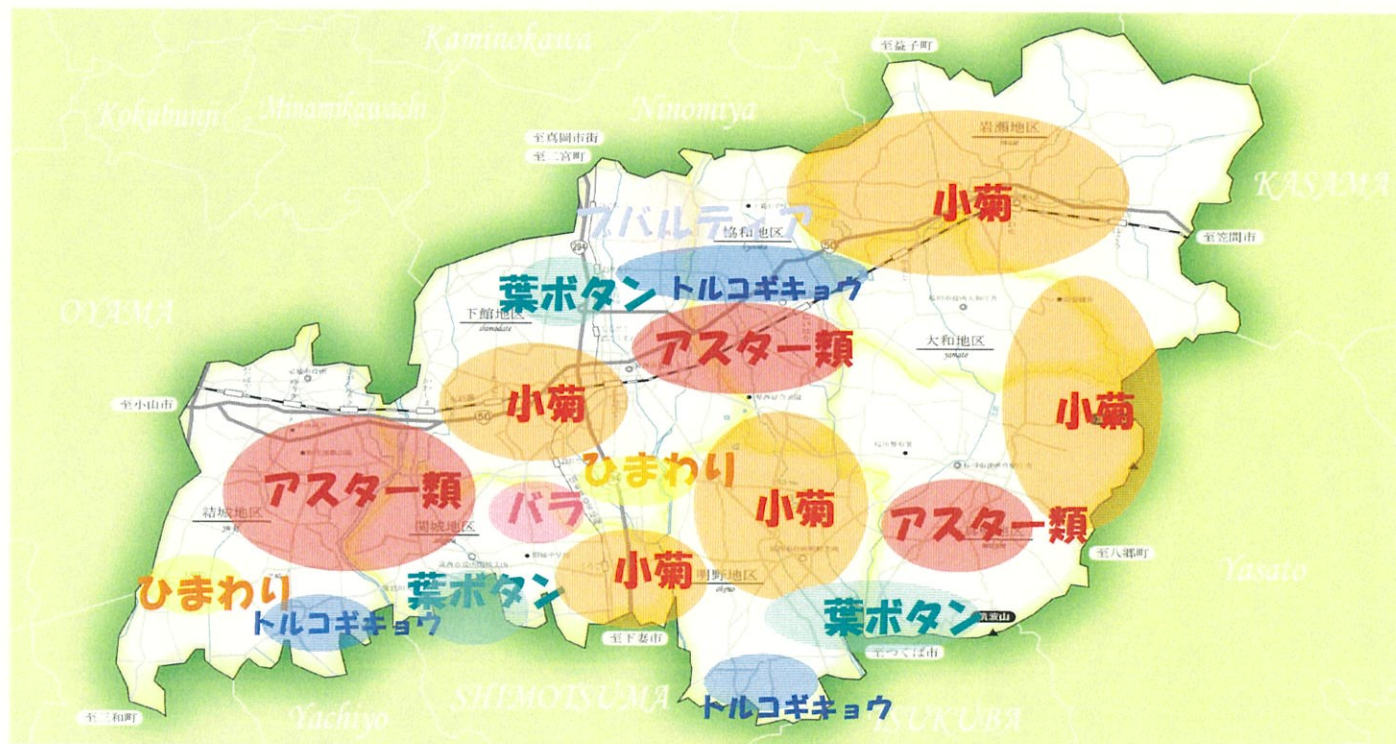
その他・・・バラにおいて県内第1号となる花き環境認証MPSに取り組み、平成20年にMPS-Aランクを取得している。H21いばらき花フェスタでの県花展では「シューティングスター」で見事、金賞1席・農林水産大臣賞を受賞している。  
県内JA最初の湿式縦箱の導入、ELFバケット出荷の導入産地。





北つくば農業協同組合は、筑西市、結城市、桜川市の3市にまたがった広域JAです。関東平野のほぼ中央、紫峰筑波山を南東に臨む茨城県の南西部に位置します。東京から60km～80km圏内にあります。総面積450.97km<sup>2</sup>の広大な田園地帯です。年間平均気温は13℃～14℃と温暖な気候で、年間降水量は1,300mm前後と恵まれており、管内を流れる一級河川（鬼怒川・小貝川・桜川・五行川）は、豊富な水量を誇ります。河川地域の水田地帯は、沖積土壌。畑作地は関東ローム層に属し、この豊かな大地と恵まれた環境が、自慢の穀物（コシヒカリ、小麦、大豆、常陸秋そば）をはじめとし青果（こだま西瓜、幸水・豊水梨、トマト、キュウリ、白菜、レタス、イチゴ、花卉類）、畜産（豚、牛）と100種類を超える農産物を産出します。

### 【JA北つくば花き生産マップ】



#### 【問い合わせ】

● JA北つくば営農経済部 園芸課

住所:茨城県筑西市西榎生1212-1

TEL:0296-25-6602